



No. **26**
20.January.2013

日本ホスピス緩和ケア協会

NEWS LETTER ニューズレター

Hospice Palliative Care Japan

日本ホスピス緩和ケア協会事務局

〒259-0151 神奈川県足柄上郡中井町井ノ口1000-1 ピースハウス病院内
TEL 0465-80-1381 FAX 0465-80-1382

Website>><http://www.hpcj.org/> E-mail>>info@hpcj.org

新春メッセージ：日本ホスピス緩和ケア協会会員の皆さんへ 質の高いホスピス緩和ケアが根つき、誰もが享受できる社会をめざそう



NPO法人
日本ホスピス緩和ケア協会
理事長 志真 泰夫

2013年の新春を迎えて理事会を代表して、会員の皆さんへのメッセージを送ります。

日本ホスピス緩和ケア協会は全国ホスピス・緩和ケア病棟連絡協議会設立から数えて22年目の春を迎えます。2012年度春に実施された診療報酬改定においては、「緩和ケア病棟入院料」に関するおおきな改定がありました。「緩和ケア病棟入院料」に関する改定の要点は、従来の緩和ケア病棟入院料は1日につき3780点の包括点数だったのに対し、30日以内で4791点、31日以上60日以内で4291点、61日以上の場合には3291点と、在棟日数に応じて点数配分に傾斜が設けられたことです。

従来の診療報酬との比較を試算したところ、緩和ケア病棟入院後 154日以上入院している患者の場合、従来の診療報酬より総額が減額になりますが、153日以内であれば増収となります。したがって、多くの緩和ケア病棟では今回の改定によって、病棟運営に大きな影響をもたらさないと思います。しかし、この点については「介護保険・健康保険検討委員会」が本年中にアンケート調査等で検証することとしており、その結果を注目したいと思います。

2008年度に行われた診療報酬改定では緩和ケア病棟入院料の施設基準が改訂されました*。このときの施設基準の改定の狙いは、地域において緩和ケア病棟に求める役割が「看取り」だけではなく、患者の苦痛を緩和して在宅療養を支援すること、また地域にある病院緩和ケアチームや緩和ケア外来、さらには在宅医療のチームとも連携して、病棟運営を行

ってほしいというところにありました。がんで亡くなる人たちの「看取りの場」として緩和ケア病棟の役割が直ちに減ってゆくわけではありませんが、今後は緩和ケア病棟の「在宅療養支援機能の強化」と「地域緩和ケアネットワークへの参画」は必須の役割になると考えます。

第1に「在宅療養支援機能の強化」という課題を達成するためには、緩和ケア病棟と病院緩和ケアチームが「専門緩和ケアサービス」として、介護施設や高齢者住宅も含めて在宅療養の患者さんを支援する自らの役割を明確する必要があります。そして、その役割を地域に理解してもらうことです。そのために2012年度の診療報酬に「緩和ケアを専門とする医師や看護師の同行訪問」という新しい報酬項目が設けられました。

第2に「地域緩和ケアネットワークへの参画」という課題を達成するためには、まず自ら「地域に出てゆく、地域と交流する」姿勢を示す必要があります。在宅ホスピス緩和ケアに携わる医療者と積極的に交流して、患者さんを通じて「顔と顔の見える関係」を築くことが大切です。

さらに、わたしはこれからの課題として、第3の課題を追加したいと思います。2010年のがん以外で亡くなった人も含めて死亡者総数は、119万人余りですが、団塊世代が75歳に達する2025年時点では死亡者総数が160万～170万人に達すると見込まれます。これらのデータをふまえると、これから求められることは、これまでわたしたちが緩和ケア病棟、緩和ケアチームで培ってきた臨床の経験と知恵を洗練して標準化し、がん患者に限らず、生命を脅かす病気を持つ多くの人々が質の高い終末期ケア(End of Life Care)を受けられることができる社会環境を整えることだと思います。超高齢社会においては、End of Life(人生の終わりの過程)をどうするか、避けて通れない課題です。

→次頁に続く

これら三つの課題に取り組むために、当面、まず、協会の基本方針としてとしてわが国のホスピス緩和ケアは「緩和ケア病棟」と「在宅ホスピス緩和ケア」を車の両輪として進めていくこと、次に二つの車輪をつなぐ軸として病院だけでなく地域でも「緩和ケアチーム」を育てること、そしてこの三つをバランス良く発展させてゆく必要があります。

わたしは、この間の出来事を振り返って、わが国は他の国が経験したことのない試練のなかを、歩み始めたと思っています。大規模な自然災害、原発事故、超高齢社会、いわば「海凶なき航海」であり、多くの人々の知恵と経験知、知識と前向きな思考、そして、情熱とエネルギーを結集して自らの力を頼みとして、進んでゆかねばなりません。そのなかでホスピス緩和ケアがわたしたちの社会にしっかりと根づき、質の高いホスピス緩和ケアを誰もが享受できる社会を目標に皆さんと共に歩みを進めたいと思います。

*それまでの「主として末期の悪性腫瘍又は後天性免疫不全症候群の患者を入院させ、緩和ケアを行う病棟であり、当該病棟に入院した緩和ケアを要する末期の悪性腫瘍及び後天性免疫不全症候群の患者について算定する」という基準が「主として苦痛の緩和を必要とする悪性腫瘍及び後天性免疫不全症候群の患者を入院させ、緩和ケアを行うとともに、外来や在宅への円滑な移行を支援する病棟であり、当該病棟に入院した緩和ケアを要する悪性腫瘍及び後天性免疫不全症候群の患者について算定する」と変更されました。



2013年度 年次大会開催予定

日時 7月13日(土)・14日(日)

会場 イイノホール&カンファレンスセンター

〒100-0011 東京都千代田区内幸町2-1-1

<http://www.iino.co.jp/hall/index.html>

今大会は、一日目に、「緩和ケア普及のための地域プロジェクト」(通称 OPTIM)の浜松地区におけるプロジェクト地域担当者である森田達也先生に、浜松での研究成果と実践についてお話しただくと共に、厚生労働省医政局在宅医療推進室の山岸暁美先生をお招きし、プロセス研究と鶴岡での実践についてお話しただくプログラムを組みました。

また、二日目の分科会は、午前と午後で異なるプログラムにご参加いただけるよう、12コマのプログラムを組んでおります。緩和ケア病棟だけでなく、緩和ケアチームや在宅緩和ケアなど、様々な分野でケアに従事される方を対象としたプログラムとなっておりますので、皆様奮ってご参加下さい。

▼前回大会の様子



イイノホール外観



Program

1日目 7月13日(土)

- 13:00~14:30 理事長挨拶
総会 2012年度活動報告・決算、2013年度活動計画・予算など
- 14:30~14:45 休憩
- 14:45~16:25 講演「緩和ケアの地域ネットワークをどう作るか」
座長：志真 泰夫・本家 好文
講演1「緩和ケア普及のための地域介入研究(OPTIM-study) :
その成果と浜松での実践(仮題)」
森田 達也先生(聖隷三方原病院 緩和支援治療科部長)
講演2「緩和ケアネットワークを作るために地域でできること :
プロセス研究と鶴岡での実践(仮題)」
山岸 暁美先生(厚生労働省医政局在宅医療推進室)
- 17:00~19:00 懇親会

2日目 7月14日(日)

9:00~12:00 分科会 午前の部

- 1) 緩和ケア病棟のケアの質の評価-自施設のケアの質をどう評価し、活用するか-
- 2) 緩和ケアチームと外来-専門的な緩和ケアのコンサルテーションと外来診療-
- 3) 医師教育支援(PCUとPCT)
- 4) 看護師教育支援(ELNEC-JとSPACE-N)
- 5) 在宅ホスピス緩和ケアと地域医療-OPTIM-studyの成果を受けて-
- 6) MSW緩和ケア研修プログラム〈I〉※

13:00~16:00 分科会 午後の部

- 7) 緩和ケア病棟でessential(不可欠)なケアとは
- 8) 新たな施設概要調査・利用状況調査について-データをどう読み、どう活用するか-
- 9) ホスピス緩和ケア推進のための政策提言-診療報酬・介護報酬の同時改定を受けて-
- 10) 地域緩和ケアネットワークどう作るか-OPTIM-studyの成果を受けて-
- 11) 有床診療所における緩和ケアの現状と問題点
- 12) MSWの研修プログラム〈II〉 ※MSWのみ午前・午後を通したプログラムとなります



大会翌日の15日(月・祝日)には、同会場にて「第3回ホスピス緩和ケア病棟看護管理者セミナー」の開催が予定されております。

【参加申し込み方法や各プログラムの詳細は、4月上旬にご案内いたします】



イノホール&カンファレンスセンター

- 東京メトロ
丸の内線・日比谷線・千代田線「霞ヶ関」駅 C3出口から徒歩1分
銀座線「虎ノ門」駅 9番出口徒歩3分
有楽町線「桜田門」駅 4番出口徒歩10分
- JR
山手線・京浜東北線・東海道線・横須賀線、都営地下鉄浅草線、ゆりかもめ「新橋」駅 徒歩10分
- 都営地下鉄
三田線「内幸町」駅 A6出口より
日比谷シティ経由で直結
- お車でお越しの方
地下に時間貸し駐車場約200台完備

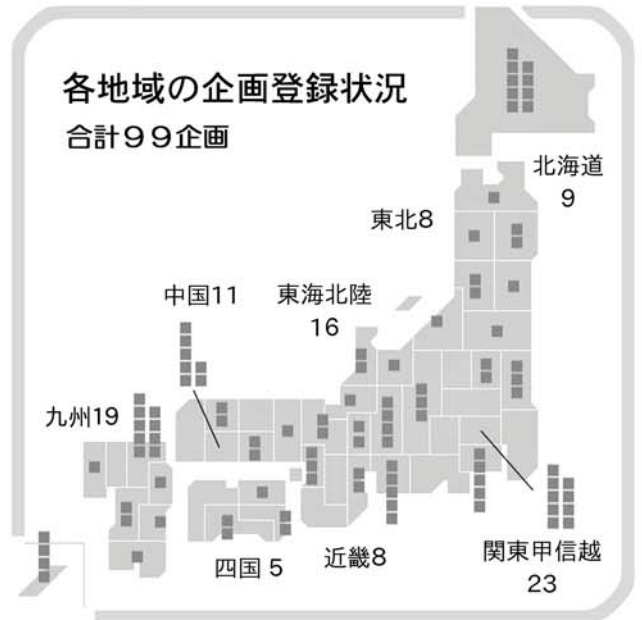
日本ホスピス緩和ケア協会では、「世界ホスピス緩和ケアデー(World Hospice and Palliative Care Day)」を最終日とした一週間(2012年度は10月7日～13日)を「ホスピス緩和ケア週間」とし、ポスターの掲示及びセミナーや見学会の実施などを通して、緩和ケアの啓発普及活動に取り組んでいます。

また、厚生労働省が2007年度より日本緩和医療学会に委託している、「がん医療に携わる医師に対する緩和ケア研修等事業」の一環として行われている緩和ケアの普及啓発活動に、「ホスピス緩和ケア週間」を通して協力してきました。

本年度は、全国の協会会員、がん診療連携拠点病院、日本緩和医療学会の会員より、講演会やパネル展示など99の企画が寄せられ、一般市民、患者家族、医療関係者など約9,100名(他、展示会来場者多数)の参加がありました。企画をお寄せいただいた皆様には厚くお礼申し上げますと共に、今年度の実施状況を報告いたします。

各地域の企画登録状況

合計99企画



【当日の様子】

各企画より提出された写真の一部をご紹介します。



北海道



【緩和ケアパネル展示】
NTT東日本札幌病院

北海道



【一般市民向けの講演】
東札幌病院

岩手県



【病院祭での見学会・相談会】
孝仁病院

茨城県



【緩和ケアブースの設置】
友愛記念病院

東京都



【3病院の合同見学ツアー】
信愛病院・救世軍清瀬病院・東京病院

神奈川県



【医療従事者による寸劇】
小田原市立病院・ピースハウス病院

世界のホスピス緩和ケアデーの様子

2012年度のホスピス緩和ケアデー（World Hospice and Palliative Care Day）は「Living to the end: Palliative care for an ageing population」をテーマとし、アジア太平洋地域では17ヶ国から企画の登録がありました。

World hospice & palliative care day
Voices for hospices 2011

企画登録数の多いインドでは、複数の看護大学や病院で学生やボランティアを対象とした関連セミナーが開催された他、ラジオでの緩和ケアライブトークショー、普段は車いすやベッドで過ごしている患者と海外へ出るといった企画が開催されました。また、シンガポールでは、「Living Well」フォトコンテストの開催、フィリピンでは、入院患者のための日本画チャリティー展示会、香港では記念フォーラムの開催と、16の病院で「月餅」を配布する啓発キャンペーンの開催、台湾では「生命教育とホスピスケア」に関する映像制作コンテスト、オーストラリアでは在宅高齢者介護のためのケアサーチ（www.caresearch.com.au）立ち上げなど、様々な催しが行われました。各国からの報告は、ホームページ（<http://www.worldday.org/>）でご覧いただけます。

長野県



【市民公開講演会】
飯田市立病院

岐阜県



【紹介チラシとグッズの配布】
岐阜県立多治見病院

三重県



【病院祭でのブース出展】
三重大学医学部附属病院

滋賀県



【在宅ホスピスに関する公開講座】
滋賀県立成人病センター

京都府



【音楽療法体験】
薬師山病院

島根県



【パネル展示会場での緩和ケア相談】
松江市立病院

広島県



【緩和ケアボランティア活動紹介】
広島県緩和ケア支援センター

徳島県



【病院職員によるフラメンコ】
徳島市民病院

高知県



【アロマセラピー講座】
細木病院

福岡県



【健康フェアでのパネル展示】
九州厚生年金病院

福岡県



【署名活動紹介のためのコンサート】
ホスピスをすべての人に開かれたものに！実行委員会

大分県



【ハンドマッサージコーナー設置】
大分県立病院

沖縄県



【ボランティアによるコンサート】
那覇市立病院

企画内容

① 一般市民向けの講演会・フォーラム等	39
② 医療従事者向けのセミナー・研究会等	11
③ お茶会等でのコンサート・ダンス	26
④ ホスピス緩和ケア関連のパネル展示	34
⑤ 緩和ケア相談コーナーの設置	17
⑥ チラシ・オレンジバルーングッズ等の配付	10
⑦ 緩和ケア病棟の見学会	10
⑧ 音楽療法・マッサージ等の体験	7
⑨ ホスピス緩和ケアに関するDVDの上映	6
⑩ 遺族会・他病棟との職員懇親会等	2

合計 162

※1つの登録企画内で複数のイベントを開催した場合はそれぞれをカウント

参加者内訳

一般市民／患者(入院・外来)／家族／学生／教員／市職員／
遺族／医師／看護師／薬剤師／臨床心理士／ソーシャルワ
ーカー(社会福祉士)／理学療法士／作業療法士／言語聴覚士
栄養士／ケアマネジャー／放射線技師／音楽療法士／保健師
／介護福祉士／介護士／事務職員／ボランティア 他

合計：9,028名(展示会来場者は含まず)

企画参加施設種別

協会会員69施設 / 会員以外35施設	
協会会員内訳	【正会員】緩和ケア病棟 49
	緩和ケアチーム 6
	一般病院 8
	診療所 4
	【準会員】法人/個人 2
会員以外内訳	日本緩和医療学会会員 19
	がん診療連携拠点病院 5
	学会会員・拠点病院 9
	他(製薬会社・市民団体等) 2

※共催の場合は各施設を参加施設としてカウントし、複数の施設が1つの団体として主催している場合は、代表施設のみを参加施設とした

2013年度

世界ホスピス緩和ケアデー & ホスピス緩和ケア週間

2013年度の「世界ホスピス緩和ケアデー」は、10月12日(土)に予定されており、隔年の同日に行われている「Voices for Hospices」と重なる年となります。

「ホスピス緩和ケア週間」は世界ホスピス緩和ケアデーを最終日とした、10月6日(日)～10月12日(土)の一週間を予定しています。

詳細については8月頃にご案内いたしますが、皆様には引き続き「ホスピス緩和ケア週間」を通じた啓発・普及活動にご協力下さいますよう、お願い申し上げます。



専門委員会活動

◆評価委員会

1. 緩和ケアの質に関する調査部会

- 1) 緩和ケア病棟における臨床指標に関する調査
 - ・2012年度は、正会員の緩和ケア病棟5施設を対象に臨床指標の施行調査及び、実施の可能性に関する聞き取り調査を実施。その結果を受けて、年度内に調査内容を確定。
 - ・2013年7月の年次大会で、新しい臨床指標を含めた調査について公表し、秋には、従来の施設概要調査に追加する形で、臨床指標調査を実施したいと考えている。

2. 緩和ケア機能評価部会

- 1) 自施設評価（今までは自己評価としていたが、自施設評価に変更）
 - ・2012年11月、正会員の緩和ケア病棟14施設を対象にパイロット調査を実施。調査結果を分析した後、2013年度の本調査（対象：緩和ケア病棟）に向けて評価用紙の見直しなども行っていく。
- 2) 日本医療機能評価機構への協力
 - ・2013年2月、医療機能評価の本体サーベイヤーの初任者研修が始まる。協会からは既に付加機能評価サーベイヤーとして活動している6名を推薦。

3. 質向上のためのプログラム開発部会

- ・2011年度に実施した、緩和ケア病棟7施設への訪問調査の結果を受けて、2012年度中に入院前後・入院中・退院前後のケアの基準となるモデルについて試行調査を実施予定であったが、内容の再検討が必要と考え、調査を延期。
- ・今後は、緩和ケア病棟における必要不可欠なケアについて再検討し、文書として提示する方向で作業を進めていく。

◆教育支援委員会

石原理事（岡山県済生会総合病院 緩和ケア科主任 医師）が委員として加わり、既にある3つの部会の活動に加え、今後、多職種セミナーについても取り組んでいくこととなった。

1. 医師教育支援部会

- ・現在、緩和ケア病棟で働く医師への教育支援と、バーンアウト対策を主に話し合っている。現場で働く医師には、物理的な疲労の他、診療報酬以上の成果を求められていること、チームケアが上手く機能していないことなどによる疲労があると考えられ、まずは病棟専従医の支援が必要ではないかと考えている。
- ・協会ホームページに現在掲載中の求人に関するものとは別に、医師研修に関する案内の運営について検討している。
- ・中期の目標として医師の発掘が挙げられている。「がんプロフェッショナル養成プログラム」運営協議会との意見交換なども必要ではないかと考えている。
- ・長期の事業に関しては、今後専門医制度が変更になるので、それを見据えた活動を行っていく。

2. 看護師教育支援部会

- 1) ELNEC-J開催支援について
 - ・SPACE-Nの受講の前提条件となるELNEC-Jの開催について、北海道支部で2013年1月に開催予定。今後、各支部でも開催できるようモデル事業として位置づけ、支部予算とは別に必要経費を支援する。
 - ・2013年度以降、他支部での開催の可能性について、各支部で検討していく。
- 2) SPACE-N[Specialist palliative care education for nurses]
 - ・専門緩和ケア看護師教育カリキュラム（SPACE-N）の改訂作業を行っている。8月にパイロットスタディを行い、32名の参加者による評価結果を受け、現在、10のモジュールを作成中である。
 - ・今後、SPACE-Nの教育方法などについて理事の意見を募り、本カリキュラムの事業化を検討していく。
- 3) 看護管理者セミナー
 - ・年次大会に合わせて開催しており、2012年度は九州支部が運営を担当し、143名の参加があった。参加者からは、仕事へのモチベーションに繋がったという報告があった。
 - ・2013年度は北海道支部の担当で、年次大会翌日の7月15日に開催予定。

3. MSW教育支援部会

- ・MSWのスキルアップ教育プログラムは、家族支援とチームアプローチが教材としてほぼ完成している。今後、どのような形で公開するかは要検討だが、まずは協会のホームページに掲載できればと考えている。

◆健康保険・介護保険検討委員会

- 1) 診療報酬の改定について
 - ・2011年度は協会として2つの提言を行い、2012年4月の診療報酬改定に実際に反映された項目と、反映されなかったものがある。2014年度の改定に向けて準備すると同時に、今回実現できなかった項目については、引き続き提言していく。
 - ・緩和ケア病棟入院料の増額が、人員配置・平均在院日数・職員の待遇改善・地域との連携などにどういった効果をもたらしたのかという調査を会員を対象に実施したいと考えている。
 - ・緩和ケアが非がんの患者についても適用されていくというのは共通概念だと思うが、在宅の場合は介護保険が主となり、その枠内での看護になるので適切なケアが難しくなる。医療保険に基づく訪問看護になれば良いと思うが、協会には訪問看護ステーションの会員が少なく、単独での提言は難しい。今後、関連団体との共同調査なども行っていきたい。





協会の活動と財政について

- ・各委員会活動が盛んになったことに伴う予算の増加、また、今後、教育に関する事業などを広げていくにあたり、更に予算が掛かることが予想される。会費の値上げについて検討し、2013年度の年次大会にて提案していきたい。
- ・寄付については、これまでもA4版のパンフレットがあったが、協会の活動紹介を合わせたパンフレットを作成していく。
- ・寄付のお願いと共に、賛助会員の増加も必要と考える。入会案内の工夫などを今後検討していく。



日本緩和医療学会との意見交換について

- 1) 緩和ケアに関する意見交換会
 - ・2012年10月、緩和ケア推進に関する最近の動向や、がん診療に携わる医師に対する緩和ケア研修会（Palliative care Emphasis program on symptom management and Assessment for Continuous medical Education: PEACE）の今後のあり方、オレンジバレーンプロジェクト(OBP)を今後どう進めていくか等について意見交換会が開催され、志真理事長が出席した。
 - ・PEACEについては組織的な協力というよりは、協会の会員施設が個々に協力している。OBPについては、これまでも協会は「ホスピス緩和ケア週間」を通して協力しており、引き続き協力していく。
- 2) 専門的緩和ケア推進に関する意見交換会
 - ・2013年3月、学会の専門的・横断的緩和ケア推進委員会と協会の評価委員会とで意見交換会を行う予定。



【北海道支部】

1. 講習会の開催支援
 - 内容：ELNEC-J
 - 期日：2013年1月26日（土）・27日（日）
 - 場所：KKR札幌医療センター
 - 対象：看護師 30名予定
2. 支部大会
 - 期日：2012年5月26日（土）
 - 場所：北海道大学クラーク館 講堂
 - 内容：
 - ・特別講演「緩和ケア地域介入研究[OPTIM-study]が明らかにしたこと-明日への示唆」森田達也（聖隷三方原病院 緩和支援治療科）
 - ・シンポジウム「動き始めた在宅緩和ケア～各地の取り組み」本間栄志（本間内科医院）、林敏（サビレッジクリニック）、土井真喜（なの花薬局）、乾公彦（旭川厚生病院）、南のぞみ（登別訪問看護ステーション）
 - 対象：支部会員施設 医療従事者 150名前後
 - 会費：1,000円
 - 参加：159名
3. 北海道支部幹事会
 - 期日：2012年10月28日（日）
 - 場所：アスティ45ビル 北海道医療大学サテライトキャンパス
 - 参加：支部幹事7名
4. 北海道支部ニューズレターNo. 10の発行
 - 発行：2012年11月

【東北支部】

1. 東北支部大会
 - 内容：
 - ・総会（2011年度事業・決算報告、2012年度事業・予算計画等）
 - ・研修交流事業体験発表、分科会（職種別）、分科会報告会、施設見学
 - 期日：2012年5月26日（土）
 - 場所：岩手県立中部病院（岩手県北上市）
 - 対象：支部会員
 - 参加：89名
2. 緩和ケア研修交流事業
 - 内容：緩和ケア病棟、緩和ケアチーム、在宅緩和ケアの交流を通して緩和ケア従事者育成
 - 期日：2012年9月～11月
 - 場所：東北6県の協力施設
 - 対象：支部会員施設の専門職
 - 参加：21名
3. 東北支部幹事会
 - 内容：
 - ・2012年度緩和ケア研修交流事業報告
 - ・2012年度決算報告
 - ・理事会報告
 - ・2013年度の支部会について
 - ・2013年度緩和ケア研修交流事業について
 - ・第4回幹事会について
 - 期日：2013年3月2日（土）
 - 場所：宮城県仙台市
 - 対象：支部幹事

【関東甲信越支部】

1. 支部大会
 - 期日：2012年5月19日（土）13：30～16：45
 - 場所：イホール&カフェインセンター（千代田区内幸町）
 - 対象：支部会員施設 医療従事者
 - 内容：
 - ・総会（2011年度活動報告・2012年度活動計画等）
 - ・緩和ケア病棟における自殺について-関東甲

信越支部会員施設における調査結果報告-
山田祐司(愛和病院 院長)
・講演「医療者のセルフケア-もう終わりにし
たいと言われたら-」
広瀬寛子(戸田中央総合病院 看護カレッジ 室)
・グループワーク

参加：105名

2. 幹事会の開催

期日：①2012年5月19日(土)、②12月1日(土)
場所：①イノホール&カフェインセンター、②フクシア東京ステーション
参加：①幹事 16名、②幹事 15名(予定)

3. 常任幹事会の開催

期日：2013年1月19日(土)
場所：東京都内
対象：支部常任幹事
内容：2013年度支部大会について

【東海北陸支部】

1. 支部大会の開催

期日：2013年1月19日(土)
場所：名古屋市 安保ホール
対象：支部会員施設 医療従事者 60名
内容：総会・グループワーク・全体会
「ホスピス・緩和ケア病棟の役割と抱える問題
～2012診療報酬改定を受けて～」

2. 幹事会の開催

期日：2012年5月12日(土)
場所：安保ホール(愛知県名古屋市内)
対象：支部幹事
内容：2012年度支部大会について他
参加：6名

【近畿支部】

1. 支部大会の開催

期日：2012年11月18日(日)
場所：新大阪コロナホテル
対象：支部会員施設 医療従事者
内容：・基調講演「その人らしい生と死を支える」
山形謙二(神戸アドベンチスト病院院長)
・分科会、分科会報告
参加：74名

2. 幹事会の開催

期日：2012年11月18日(日)
場所：新大阪コロナホテル
対象：支部幹事
参加：9名

3. 近畿支部看護師長会

日時：2012年11月18日(日)
場所：新大阪コロナホテル
対象：支部会員施設代表者各1名
参加：20名

【中国支部】

1. 第4回緩和ケア看護師交流会の開催

日時：2012年5月26日(土)
場所：松江市立病院
対象：支部会員施設看護師
参加：56名

2. 支部大会の開催

期日：2012年9月8日(土)～9日(日)
場所：広島大学医学部同窓会館「広仁会館」
対象：支部会員 医療従事者
内容：・シンポジウム「在宅を支える緩和ケア病棟」
・シンポジウムおよび事例研究

濱本千春(YMCA訪問看護ステーション)、丸山典良
(まるやまホームクリニック)、太田佳子(島根大学医
学部付属病院)、足立誠司(藤井政雄記念病
院)、斉藤泰子・弓場春江(福山市民病院)

参加：124名

3. 支部会員施設代表者会議(緩和ケア担当)・看護師 師長会・チームケア部会・総会

日時：2012年9月8日(土)
場所：広島大学医学部同窓会館「広仁会館」
対象：支部会員
参加：95名

4. 懇親会

日時：2012年9月8日(土)
場所：広島アンデルセン
対象：支部会員
参加：60名

5. 幹事会の開催

日時：2012年3月上旬
場所：広島市(予定)
対象：支部幹事

【四国支部】

1. 四国支部幹事会

期日：2012年8月19日(日)
場所：長井記念ホール(徳島大学蔵本キャンパス)
対象：支部幹事
内容：四国支部会員の動向、2011年度事業決算報告、
2012年度事業計画、意見交換会、ホスピス緩
和ケア週間の活動予定
参加：四国支部幹事7名

2. 支部会会員情報交換会

期日：2012年8月19日(日)
場所：長井記念ホール(徳島大学蔵本キャンパス)
内容：意見交換
対象：支部会員施設
参加：27名

【九州支部】

1. 支部大会の開催

期日：2012年5月26日(土)
場所：福岡国際会議場 4階会議室他
対象：九州支部会員施設の医療従事者
テーマ：「グリーフケア」
内容：・講演1) スタッフの喪失体験とセルフケア
下稲葉かおり(モリサ大学看護助産師学科レクチャー)
・講演2) 大切な人を亡くした子どものグリー
フケア
阿部まゆみ(名古屋大学大学院特任講師)
・シンポジウム 発表「家族へのグリーフケア」
清田直人(栄光病院チャプレン)
シンポジスト
下稲葉かおり・阿部まゆみ・清田直人
・分科会

参加：226名

2. 幹事会の開催

日時：2012年11月24日(土)
場所：九州支部事務局(栄光病院2F)
対象：支部幹事
内容：・支部の現況報告
・2012年度支部活動について(中間報告)
・2013年度支部活動計画案・予算案の検討

3. 九州支部ニューズレターVol. 9の発行

時期：2012年秋～冬 発行
対象：九州支部会員施設及び賛助会員にメール配信

岡部 健先生を悼む



当協会の理事をお務めいただいております、岡部 健先生（医療法人 爽秋会理事長）が、2012年 9月27日、逝去されました。心よりご冥福を申し上げます。

岡部先生は、2006年から逝去されるまでの約6年間、在宅ホスピス緩和ケアの領域を担当する理事として、当協会の活動に携わって下さいました。また、2008年からは「在宅ホスピス緩和ケア評価基準検討会」の座長としてもご尽力いただき、同年7月に宮城県仙台市で開催された年次大会では、大会長をお務めいただきました。

岡部先生と関わりの深かった先生方に追悼文をお寄せいただきましたので、掲載いたします。

人生を旅するひと

特定非営利活動法人 日本ホスピス緩和ケア協会
理事長 志真泰夫

岡部先生は享年六十二歳であった。わたしと同世代であり、これから一緒に仕事をして年老いてゆく、そういう同志であった。

岡部先生と知り合ったのは、おそらく平成十二年に郡山で開かれた在宅医療研究会であったと思う。岡部先生は、当時としては斬新なITを用いた在宅ケアの実践を報告されて、わたしは強い印象を受けた。その後、当協会のメンバーとして在宅ホスピス緩和ケアの領域では欠かせない人となった。

平成二十年、仙台で開催された協会の年次大会で、大会を取り仕切る世話人を務めてくださった。大会終了後、わたしは岡部先生の「秘密の楽園」ともいふべき仙台郊外のダーチャ（ロシア語で都市郊外の別荘を意味する）に案内してもらい、その人間的なスケールの大きさにまた強い印象を受けた。

岡部先生は視野の広さと視点の斬新さでよく人を驚かせたが、同時に岡部先生は「人生を旅するひと」でもあった、とわたしは思っている。津波の後、何もかも波にさらわれた巨理荒浜に立ち尽している、テレビに映った岡部先生の姿がわたしの目に焼き付いている。それから程なくして岡部先生はわたしたちに別れを告げた。

あきひがん 秋彼岸ふいに旅発つひとがあり 遊水

追悼

ケアタウン小平クリニック
院長 山崎章郎

岡部先生、「お迎えは、来たのですか」
先生の訃報に接した時、真っ先に考えましたことは、このことでした。
長らく在宅での緩和ケアに取り組んでこられた先生は、在宅で亡くなる半数近い人が、「お迎え」を体

験していることを遺族調査で確認されました。そして、その人の深層意識の中にある宗教性に触れることなくケアすることは困難であると、主張されて来られたからです。

死後の世界があるのであれば、当然、お迎えはあるはずで。とすれば、死は、たった一人の旅立ちではなくなるのです。

それにしましても、在宅緩和ケアのパイオニアとして、仙台における在宅死率の目を見張るような向上に貢献し、また、当協会の「在宅ホスピス緩和ケアの基準」をまとめ上げるなど、常にこの領域のトップランナーとして活躍された先生の死は、残念の極みです。

それでも、岡部先生、いつの日か、またお会いできることを楽しみにしつつ、ご冥福を祈りたいと思います。

たくさんの「感謝」を岡部先生に

財団法人 慈山会 医学研究所 附属 坪井病院
看護部長 清水千世

平成24年 9月27日、三年余りの闘病の末、62歳の天寿をまっとうし、岡部先生はあの世に旅立たれました。

62歳を天寿というには、いささか早いような気もしますが、岡部先生は、ことあるごとに「長生きしりゃいいってもんじゃないんだ」、「長生きが偉いわけではない」とおっしゃり、人生の質について熱く語ることがよくありました。

先生とは20年来のお付き合いとなりましたが、本当にそれを「地」でいかれましたので岡部先生の人生は「天寿」以外のなにものでもないと思っております。「忙しい忙しいって、今やらなくて、いつやるの」。限られた命の中で最後にいただいた言葉でした。残されたものは頑張らねばなりません。すべての意味で身をもって東北を引っ張って行ってくださった岡部先生、言葉では言い尽くせないほどの感謝でいっぱいです。本当にありがとうございました。

入会・施設基準届出受理施設について

2012年7月に行われた総会議事録でご報告して以降、下記の通り入会および新たに施設基準の届出が受理されたとの連絡がありましたので、ご報告致します。

- ★緩和ケア病棟入院料届出受理施設
- ☆緩和ケア診療加算届出受理施設

【正会員：新入会】

- ★札幌共立五輪橋病院（北海道札幌市）
- ★JA北海道厚生連 札幌厚生病院（北海道札幌市）
- ★我孫子聖仁会病院（千葉県我孫子市）
- ★東海中央病院（岐阜県各務原市）
- ★医療法人慈生会 前原病院（広島県福山市）
- ★山鹿市民医療センター（熊本県山鹿市）
- ☆帝京大学医学部附属病院（東京都板橋区）
- ☆藤枝市立総合病院（静岡県藤枝市）
- ・時計台記念病院（北海道札幌市）
- ・東京医科歯科大学医学部附属病院（東京都文京区）
- ・医療法人清和会 長田病院（福岡県柳川市）
- ・水前寺公園クリニック（熊本県熊本市）

【正会員：区分変更】

- ★社会医療法人財団 狭山病院（埼玉県狭山市）

【準会員：入会】

- ・田巻 知宏（北海道札幌市）
- ・岩田 友子（静岡県浜松市）
- ・廣岡 佳代（東京都台東区）

会員動向（2013年1月1日現在）

地域別	北海道	東北	関東甲信越	東海北陸	近畿	中国	四国	九州	合計	
正会員	病棟	13	14	62	31	32	23	12	51	238
	チーム	2	1	21	2	6	1	1	1	35
	一般病院	5	4	18	7	6	3	3	9	55
	診療所	2	5	20	2	6	3	1	10	49
	小計	22	24	121	42	50	30	17	71	377
準会員	法人	3	4	10	1	0	2	3	2	25
	個人	4	3	21	4	7	3	1	6	49
	小計	7	7	31	5	7	5	4	8	74
賛助会員	法人	0	1	9	1	1	1	0	0	13
	個人	4	2	14	5	3	1	1	0	30
	小計	4	3	23	6	4	2	1	0	43
合計	33	34	175	53	61	37	22	79	494	

ホスピス緩和ケアに関する情報について

協会では毎年4月、各正会員へご登録いただいている施設概要の確認をお願いしておりますが、年度途中でも新たに緩和ケア入院料・緩和ケア診療加算の施設基準を届出された場合や、連絡先・担当者等の登録内容に変更がある場合は、協会事務局（info@hpcj.org）までご連絡下さいますようお願い申し上げます。

寄付報告

当協会では、協会の事業に賛同し、応援して下さる個人や団体からのご寄付を受け付けており、2012年5月以降、160,000円のご寄付をいただきました。この場をお借りして、厚くお礼申し上げます。

【ご寄付くださった方】 菅生 勇様（神奈川県） 田中 巖様（東京都）

ご寄付のお願い

私どもの活動は、協会の事業に賛同し、応援して下さる個人の方、団体からのご寄付によって支えられています。皆様の温かいご支援をお待ちしています。

詳細については、

- ①氏名（法人の場合は法人名と連絡担当者名）
- ②住所
- ③電話番号
- ④メールアドレス（お持ちでしたら）

以上を明記の上、郵送またはメール・FAXで事務局までお問い合わせ下さい。関係資料をお送りいたします。

直接お振込みいただく場合、振込先は下記の通りです。

【振込先】

三菱東京UFJ銀行 新富町支店
 口座：普通預金 3677396
 名義：特定非営利活動法人
 日本ホスピス緩和ケア協会
 理事長 志真 泰夫

ご不明な点などございましたら、お電話でも受け付けております。